

第5学年 家庭科学習指導案

日時 2023年6月28日(水) 5校時
児童 5年1組 児童24名
指導者 原田 香菜

1. 題材名「ひと針に心をこめて」

2. 題材の目標

生活を豊かにするための布を用いた手縫いの製作について、「健康・快適・安全」の視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけ、製作計画を考え、製作を工夫することができる。

【知識・技能】製作計画や手縫いによる製作の仕方について理解しているとともに、適切にできる。

【思考・判断・表現】生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や手縫いによる製作について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。

【主体的に学習に取り組む態度】家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた手縫いによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

3. 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現等	学びに向かう力、人間性
製作計画や手縫いによる製作の仕方について理解しているとともに、適切にできる。	生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や手縫いによる製作について問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた手縫いによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4. 指導する内容について

(1) 題材について

①題材観

本大題材では、豊かな衣生活を送るために、課題をもって、知識及び技能を身につけるとともに、それらの課題を解決する力を養い、衣生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することをねらいとしている。ステップ1では、身の回りには、針と糸を使って作られたものがたくさんあることを理解させるとともに、針と糸が使えると、生活を豊かにできることに気づかせる。ステップ2では、玉結び・玉止め・返し縫い、ボタン付けなどを、安全に正しく行う方法を理解させる。そして、製作手順を考えたり、よりよい作品になるよう自分なりに工夫したりしながら作品作りを実践させる。ステップ3では、手縫いのよさを生かしてやってみたいことについて、周りの人と意見交流を行うことによって、家庭生活の中での実践意欲を高め、学びを深めさせる。

②児童観

全体的に落ち着いた雰囲気のある学級である。数名、私語が多く落ち着きのない場面も見られるが、学習に対する意欲も高く、何事にも頑張ろうとする態度が伺える。家庭科については、5年生になってから始まった教科であり、子どもたちの期待値も高い。一方で、学習に困難を抱える児童の割合は高く、手先

の器用さにも個人差があり、初めて取り組む裁縫の学習では、苦戦することが予想される。指導者側の手立てをしっかりと講じることで、子どもたちが安心して取り組むことができるように努めたい。

③指導観

本大題材では、布を用いた製作の入り口となるので、用具の安全な扱い方や手縫いの基礎的・基本的な技能を習得させたい。また、手縫いについて学ぶのは本大題材だけであるが、第8大題材「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」、第12大題材「思いを形にして生活を豊かに」の基礎となる内容なので、必要に応じて本大題材をふり返らせるとよい。本大題材では、「健康・快適・安全」という見方・考え方で「生活文化」と関連付けながら衣生活を見直すことを通して、手縫いを家庭生活で活用することや、他者との関係を豊かにする方法やそのよさにも気づかせたい。

(2) 研究に関わって

①放送・ICTの活用の実態

これまで、放送番組を活用した授業はあまり設定できていない。今後、活用場面を考えながら積極的に取り入れていきたいと考える。また、ICTについては、子どもたちが多様な場面でタブレット端末を活用してきている。子どもたち自身スキルとして身につけており、全員が抵抗なく扱うことができる。また、タブレット端末を活用することに対する意識も高く、学習への意欲にもつながっている。積極的な活用が求められる。

②本題材における放送・ICTの活用

ツール	活用場面	良さ
NHK for School 『カテイカ』〈手ぬいでイカした小物づくり〉	裁縫用具の準備の仕方、縫い方、ボタン付けの仕方の確認 小物づくりの確認	動画を見ることで、各技能について理解を定着させ、小物づくりの見直しを持つことができる。
実物投影機	技能の確認	子どもたちが苦手とする技能について、手元を見せながら、ゆっくり丁寧に説明することができる。
タブレット：コラボノート	ティッシュケース作りの設計図の交流	設計図のアイデアを共有することで、新たな気付きを促し、アイデアを広げ、自分の設計図を見直すことができる。
タブレット：コラボノート	意見の交流	自分の考えを画面に写しながら意見交流をすることができる。

5. 指導計画

期	学習過程	学習活動		評価		
			放送・ICT	知識	技能	態度
1	【見つめよう】 針と糸を使ってできることを見つけよう。	1 針と糸を使ってできること（1時間） ・針と糸を使ってできることを自分の家庭生活とも関連付けながら見つけて発表し合おう。	タブレット ：コラボノート		○	○
2	【計画しよう】 【実践しよう】 玉結び・玉止め・波縫い・返し縫い・ボタン付けが正しく安全にできるようになろう。	2 手ぬいにトライ！（全7時間） ・裁縫用具の名前や安全な扱い方を考える。 ①玉結び・玉止め・ボタン付け・波縫い・返し縫い・かがり縫い（4時間） ・指導者の示範や図や動画を見て、練	実物投影機 NHK for School 『カテイカ』〈手ぬいでイカした小物づくり〉【～8:16】	○	○	○

		習し、各技能を理解する。 ・目的に応じた縫い方を考える。 ②ティッシュケース製作（3時間） ・設計図を考える。 ・ティッシュケースを製作する。授業の終わりには毎回振り返りをする。	NHK for School 『カテイカ』〈手ぬいでイカした小物づくり〉 【8:16～9:59】 タブレット ：コラボノート			
3	【生活に生かそう】 【新しい課題を見つけよう】 手縫いの良さ生かしてやってみたいことを考え、計画しよう。	3 手ぬいのよさを生活に生かそう。(1時間) ・ステップ1, 2の学習を振り返り、生活の中で手縫いがどのようなことに生かせるかを話し合う。 ・手縫いを使ってやってみたいことの計画を立てる。	タブレット ：xSync			○ ○

6. 本時について

(1) 本時の目標

- ・ティッシュケースの設計図を考え、表現することができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点・評価
導入	○手縫いの仕方の確認をする。 ・なみぬい、返しぬい、かがりぬい ○ティッシュケースをつくることを確認する。 ○課題を確認する。	○放送番組を見ながら、ぬい方とぬい方の特長を確認する。 ○放送番組を見ながら小物づくりをすることを確認し、活動の見通しを持たせる。	NHK for School 『カテイカ』〈手ぬいでイカした小物づくり〉 【4:05～4:51】 NHK for School 『カテイカ』〈手ぬいでイカした小物づくり〉 【8:16～9:59】
	課 ティッシュケースの設計図を考えよう。		
展開	○計画を立てる。(設計図を書く。) ○グループごとに設計図を交流する。 ○全体交流する。	○活動内容(道具)の確認。 ・使う材料を確認する。 ・作るものを例示する。 ○コラボノートのひな型に縫い方やデザインを書き込んでいく。 ○コラボノートで自分の設計図を提出させ、画面を見ながら友達の設計図を見せ合う。 ○何名かに指名し、設計図の説明をさせる。	実物投影機 タブレット:コラボノート 【思・判・表】ティッシュケースの設計図を考えて表現することができる。

	○自分の設計図を見直す。	○友だちの設計図を参考にしながら、自分の設計図を振り返らせる。	
まとめ	○今日の学習を振り返る。		タブレット : forms
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ま 縫い方に着目して、ティッシュケースの設計図を考えることができた。</p> </div>		
	○次時の活動を見通す。		